

間人分校キャリア教育だより

平成 25 年 9 月 京都府立網野高等学校間人分校

青年は未来を信じ
使命に生きる



間人分校の教育理念

校長 高橋 弘

間人分校は、昭和 23 年 9 月 1 日に設置され、今年で 65 年目を迎えています。卒業生は、丹後はもちろんのこと、日本全国のさまざまな分野で活躍しています。今年度も 13 名の新入生を迎え、全校生徒 50 名で学びをスタートしました。

間人分校での学びの特長は、4 年間の学びのスパンと少人数のゆとりのある環境で、個に応じた学びができることにあります。その利点を活用しながら学校経営方針として、

1. 将来に対する夢や目標を持たせ、希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。
2. 個に応じた学習指導を大切にし、基礎基本の定着を図り学習意欲を向上させる。
3. 社会教育、道徳教育を大切にし、家庭との連携をとりながら社会的規範意識を高める。
4. 特別活動、部活動、ボランティア活動等を重視して、心身の育成を図る。

を掲げています。

これら 4 つを学校経営の大きな柱とした教育の中で、生徒諸君がこの間人分校での学びを通して、「自分は 4 年間やり遂げたんだ。」という充実感と自信を持ち、さらに未来に希望を持って巣立っていけるよう心より願っています。

現在、経験を積んだ年配の教員とエネルギッシュな若手とが、手を組んで生徒を育てていますが、保護者の皆様、丹後地域の皆様の一層の御理解と御協力により、より着実に生徒の未来が切り拓かれていくものと思いますので、今後とも暖かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

「間人分校のキャリア教育」

進路指導部長・理科 狩野清貴

私たちが働く目的は、収入を得るためだけではありません。働くことは社会への貢献であり、たとえば他人の役に立っているという実感＝生きる喜びにつながる大切な活動です。

世の中にはいろいろな仕事がありますが、見た目の華やかさよりも、適度なストレスで自分に合っていると感じられることが大切だと思います。

生徒達には、学力とコミュニケーション能力を向上させるとともに、他人との信頼関係を築くことの大切さを学び、進路を望む方向へと切り拓きながら、豊かな人生を送ってほしいと願っています。

＜間人分校のキャリア教育＞

1 年	自己理解を深める。	面談や S S T を通して自己肯定感を高め、将来の見通しを持つ。
2 年	進路意識の向上を図る。	進路ガイダンスや企業見学等を通して、自分の適性を自覚する。
3 年	具体的な進路を考える。	インターンシップを通して職業観を高め、進路について考える。
4 年	希望進路の実現を図る。	適切な進路選択をし、実現に向けて努力する。

「スローな教育」

教務部長・国語科 石山敦子

間人分校では教育目標の一つに「基礎基本の定着」をあげています。1 年生においては、中学校までの学習内容を復習・確認しながら、高校での学習につなげています。少人数の良さを生かして一人一人のつまずきに丁寧に対応するとともに、授業のユニバーサルデザイン化を進め、生徒自身の活動を取り入れながら、日々の生活の中に学習を定着させています。

4 年間という時間の中で、最初は一つ一つ指示をしていたことが、学年が上がっていくと、主体的に学ぶ様子が見られるようになります。個人差もあり、ゆっくりとした歩みかもしれませんが、学習に対する苦手意識が弱まっていきます。

自分が苦手なこと、困っていることに対して、どのようにすれば解決できるのか。自分ができることを考えて工夫する力は、学習だけでなく、社会に出てからも役立つ力です。一人一人の成長に合わせて自立の力につなげていきたいと考えています。

「授業のユニバーサルデザイン化」

2 年担任・地歴公民科 高津浩司

間人分校は、全校をあげて「授業のユニバーサルデザイン化」に取り組んでいます。

誰もが使いやすいようにという発想で物を作ることをユニバーサルデザインと言いますが、誰もが分かりやすいと感じる授業にするため、板書、教材の提示方法、教師が行う指示・発問、掲示物の内容や配置等を工夫するのが、「授業のユニバーサルデザイン化」です。

簡単な例を示すと、生徒に都道府県を尋ねるときに都道府県名だけでなく、場所も答えさせるようにします。黒板に地図を貼り、指差しをさせるのです。すると「おかやまけん」と「わかやまけん」を聞き違えるようなケースを防ぐことができます。

小学校では、ユニバーサルデザイン化がたいそう進んでいるようです。進んだ取組からヒントを得て、高校生の発達段階を考えたアレンジを加え、間人分校に合った授業方法を研究していきたいと思っています。

「つながる力向上プログラムα」

1 年担任・保健体育科 吉岡知徳

「つながる力向上プログラムα」は、昨年度から始めた間人分校独自の「つながる力向上プログラム」にソーシャルスキルトレーニング（S S T）を織り交ぜ、社会生活に欠かせないスキル（コミュニケーション能力）を身につけることを目標としています。1 年生を対象としており、1 学期には右のような活動を行いました。

「つながる力」はあらゆる場で培われるものだと思いますが、核家族化が進みネット社会が広がる中で、人との関わりを避ける子どもが増え、人間関係にますます大人もいます。小さな成功体験の積み重ねが大きな力になることを信じ、社会において自らつながりを求め、共生していける力を育てていきたいと思っています。

4 月 23 日	自己紹介文
4 月 30 日	基本的な生活習慣（睡眠と朝食）
5 月 14 日	S S T ガイダンス
5 月 21 日	ボランティア活動（地域清掃）
6 月 4 日	あいさつ・発表の基本
6 月 11 日	適切な言葉づかい（1）
6 月 18 日	適切な言葉づかい（2）
6 月 25 日	自分の気持ち・相手の気持ち
7 月 2 日	ソーシャルスキル実践編 ①届け物をする。②副校長と話そう。

「はじめての S S T」

副校長 木村嘉宏

7 月の初めのこと、1 年生を対象とする S S T の実践講座を実施しました。内容は、①「先生への届け物」と、②「副校長室への入室、副校長との会話、退室」です。①では、届け物をする相手が、普段、授業を習っている先生だったので、リラックスして取り組めたようですが、②の方は、初めて副校長室に入室する生徒がほとんどであり、緊張している様子でした。

生徒の相手をして、良かったと思うことが 3 つあります。まず「失礼します。」と言えたこと、次に「あり

がとうございました。」と言えたこと、最後に「謙虚さ」が感じられたことです。「謙虚」と言うとむずかしいですが、生徒には「自分のしたいことを控え、先に相手のことを考えること」だと説明しました。定型の言葉だけでなく、態度として示せたことが大きなことだったと思います。

コミュニケーションの力は一朝一夕に身につくものではありませんが、経験を積み重ね、自信に変えてほしいと願っています。

「おはようと言える力」

生徒指導部長・保健体育科 岡下宏行

「挨拶はするものです！」子どもの頃、繰り返し言われました。昔の村では、誰と出会っても（知らない人にも）必ず会釈（えしゃく）をしました。今でも私の近所では、腰の曲がったおばあさんが、だれにでも「はい」と挨拶をしてくれます。

「おはよう」という言葉が出にくい生徒もいます。「自分から挨拶をして、答えてもらえなかったらどうしよう。」「無視をされて、傷つくのはいやだ。」そんなふうに考えているのかもしれませんが、しかし、自分が思っているほど他人は意識していないものです。「おはよう」「こんにちは」を繰り返す中で、関係はよくなっていきます。

別に、挨拶をしなくても生きていけます。しかし、人との関わりをよくし、生活を豊かにし、楽しく生きていくために欠かせないのが挨拶です。挨拶は、「私はあなたに危害を加えませんよ。」「私はあなたと友達ですよ。」という意思表示でもあります。つまり、平和な集団を築く基本行動なのです。

間人分校では、毎朝、全教員が校門近くで声かけをしています。それは、生徒のみなさんに「おはよう」と言える人になってほしいと願っているからです。挨拶は習慣であり、繰り返すことによって身につくものです。日常の場面を大切にし、自分から「おはよう」と言える人に成長してほしいと思います。

「短冊に書かれた願い事」

4年担任・英語科 行待 香

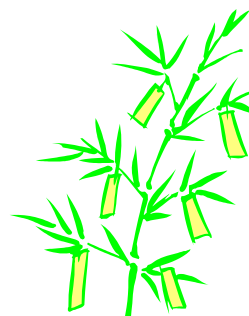
間人分校には月に一度、外国語指導助手のサマンサ先生が来ます。毎回、色々な趣向を凝らした授業をしてもらい、生徒達も楽しみにしています。

毎年7月には、願い事を英語でしたためて七夕飾りにし、校内に展示する取組をしています。昨年は、願い事を考えて書くことによりかなり時間がかかりましたが、今年はサマンサ先生のアドバイスを受けながら、それぞれの願い事をスムーズに書くことができました。

願い事の内容は、1年生の場合「～に行きたい」「～に会いたい」「～がしたい」といった形が多く、2年生になると「～になりたい」といった将来の夢について書く生徒が増えます。3年生には「自分の周りの人が幸せになりますように」や「世界平和」など、自分の周りに気を配った願い事が見られるようになります。4年生はさすがに「試験に合格しますように」「～になれるように」など、目前に迫った自分の進路に関係した願い事が多く書かれていました。その他、どの学年にも「きれいなお嫁さんがもらえますように」「彼女と結婚できますように」など、恋愛に関する願い事もありました。

今年は、それぞれが折り紙で素敵な飾りを作り、笹飾りは昨年よりも一層豪華になりました。みんなの願いが叶うと良いなと思います。

I hope everybody's wish will come true.



「スポーツを楽しむ」

3年担任・商業科 梅本秀敏

スポーツというと、苦手な人からすれば、“つらい”“面倒”といった目先のマイナスイメージが先行しがちですが、たくさんの魅力が隠されています。たとえば、体力をつけて健康な体をつくることもできますし、コミュニケーションや礼儀など社会人としての基礎力を身につけられることも魅力の一つです。

間人分校では、木曜日に部活動の時間があり、全校生徒が両丹総体に向けて、毎週、練習をしています。スポーツが得意な生徒もいれば、そうでない生徒もいますが、大切なのは技術や成績よりも継続することだと考えています。くじけそうになることもあるでしょうが、そこで諦めずにやり遂げて得た経験は、卒業後

も自分の自信となり支えになります。それこそが本当の意味での楽しさなのです。

スポーツをする機会が身近にある高校生の中に、遊びの楽しさとは違うスポーツの楽しさを経験してほしいと願っています。

「プラスワン・スタディ」

統括学年部長・数学科 木下 諒

「プラスワン・スタディ」とは、丹後教育局管内の高校生による、小学生の放課後学習支援の取組です。今年度から、間人分校の生徒が間人小学校で活動を始めるようになりました。希望者を募ったところ、4名の生徒が参加を申し出てくれました。1学期の活動内容は、1・2年生のプリントの丸付けと下校の付き添いでした。はじめは、「うまくできるだろうか。」「分からないことを聞かれたらどうしよう。」と不安な気持ちが見られ、教員が付き添っていました。しかし、回を重ねるごとに慣れてきて、生徒たちだけで自信を持って活動できるようになりました。活動を終えて帰ってきた生徒たちは、いつも充実した誇らしそうな表情をしています。

「将来の夢のために」「子どもが好きだから」「いろいろなことを経験したいから」参加しようと思った動機はそれぞれですが、自ら進んで「やってみよう」と思い立ち、精一杯活動している様子や目に見えて成長していく姿を見ると、高校生にとっても収穫の多い取組だと感じます。

2学期以降も活動を継続します。1学期からの参加者に加えて、新たに参加する生徒が増えることを期待しています。

「卒業生の頑張る姿」

保健部長・特別支援教育コーディネーター 藤原典子

間人分校では、卒業生を招き「卒業生の進路講話」を実施しています。彼らは「社会に出てからは、つらいこと、苦しいこと、楽しいことの繰り返しだけど、前を向いてしっかり働いている。」と語ってくれます。進路選択にあたって大切にしてきたことや高校での学びと現在の仕事のつながりの話は、進路に悩む生徒たちへの良きアドバイスになります。そして卒業生の頑張りが、メッセージとしてしっかりと伝わっています。

この夏7月16日には、「聴覚障害の理解学習会」に卒業生を招きました。彼女は、在学中、自身の障害をなかなか友だちに言えなかったこと、背中を押してもらい自分の苦しみを告白したとき、周りの生徒から「そんなことを考えてたんか。なんでもするから言ってよ。」という言葉が返してもらったこと、それからは「安心感と勇気」を持って学校生活を送ることができたこと、また高校卒業後は、社会の厳しさに直面することも多いが、周りの人たちの声かけに感謝しながら、夢に向かって頑張っていることを話してくれました。「前を向いて日々頑張っている。強い人だと思った。誰もがその人なりに努力をしていることに気づいた。」3年生の感想です。障害のあるなしではなく、「共に在ることを楽しいと感じる。」ことの気づきにつながった学習会でした。

「卒業生の頑張る姿」を知ることで、生徒一人一人が自分の長所や特性を踏まえ、少しずつ課題解決力を向上させ、自信を持って社会生活を送るための「自立力」を養ってほしいと願っています。

「努力は人を裏切らない」

技術職員 中田邦雄

高校生活は、将来のためにとっても重要な期間です。一人一人が志高く、勉強やスポーツなどいろいろなことに挑戦し、視野を広げ、将来の展望を見出すための礎となる力を身につけてほしいと思います。

人間の力には「無限の可能性」があります。「ワンダー光線」を信じて、勇気を持ち、積極的に自分の人生を耕しましょう。とにかく努力を惜しまないでください。そのことが、いつの日か必ず活きるのです。何事にも感謝し、素直に喜ぶということを大切にして、学校生活を頑張してほしいと願っています。

今後も御支援・御指導よろしく願いいたします。

京都府立網野高等学校間人分校（〒627-0201 京丹後市丹後町間人 337 / TEL & FAX 0772-75-0142）